

第70回

上高井教育研究集会概要

令和5年度



上 高 井 教 育 会
上 高 井 校 長 教 頭 組 合
県 教 職 員 組 合 上 高 井 支 部

—— 目 次 ——

まえがき	1
大会スナップ	2
1 子どもの適応と人間関係づくり（高甫小学校）	4
2 子どもの生活づくり（相森中学校）	5
3 キャリア教育と進路指導（高山中学校）	6
4 人権同和教育（栗ガ丘小学校）	7
5 健康教育（須坂小学校）	8
6 子どもと地域社会（常盤中学校）	9
あとがき	10

まえがき

ここ数年、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となっていた、上高井教育会、上高井校長教頭組合、長野県教職員組合上高井支部の三者共催による「第70回上高井教育研究集会」が、去る9月2日(土)4年ぶりに開催されました。今回の集会は、会場を6校(高甫小学校、相森中学校、高山中学校、栗ガ丘小学校、須坂小学校、常盤中学校)に分散し、参加者が参集し4年ぶりに開催されました。コロナ禍以前の参加人数よりは参加人数を制限したものの、学校関係者、保護者、300名余の皆様方のご参加をいただき、盛会のうちに終了することができました。

ご来賓として、日頃より上高井の教育を支えてくださっている、小林雅彦須坂市教育長様、山崎 茂小布施町教育長様、澁谷茂夫高山村教育長様には、ご多用の中ご臨席を賜りましたことに深く感謝申し上げます。

また、ご参集の皆様方には、早朝より会場校へご参集いただき、ありがとうございます。さらに、助言者の皆様方には、ご多用にもかかわらず快くお引き受けいただき、具体的でわかりやすいご助言・ご指導を賜り、実り多い研究集会となりました。誠にありがとうございます。

近年、教育現場を取り巻く課題として、SNSやオンラインゲームに関するメディア利用についての問題、チャット GPTをはじめとする生成 AI と教育との関係、また少子高齢化の急速な進展や子どもの貧困、ヤングケアラーの問題など、子ども達を取り巻く社会や家庭の環境が大きく変化し、様々な課題が指摘されています。このように子ども達を取り巻く環境の変化は、ここ上高井地区においても大変心配するところでもあります。こうした、社会や教育環境で育つ子ども達の教育について考える時、学校、家庭、地域が情報を共有し、連携を深め、共に考え合うことが益々大切になってきます。

本研究集会におきましては、日頃の教育実践を持ち寄り、成果と課題、悩みなどを教職員と保護者の皆様方が共に語り合うことを通して、子ども達の理解を深めたり教育支援の輪を広げたりしていくことができたとと思います。そしてそのことは、私たち自身の職能向上と「地域の子どもは地域で育てる」という地域教育の振興に寄与すると共に、予測困難な時代を切り拓いていく力を子ども達に育てることができるものと考えております。地域や子ども達の課題を明らかにし、解決に向けて共に学び合い、協働して課題解決に取り組むことができる上高井になることが、子どももおとなも含めた、地域に暮らす私たち全員の幸せの実現につながると信じています。

本集会で考え合ったことや体験したこと、学んだ成果を、ぜひ明日からの教育実践や家庭での教育、地域における協働、支え合いの場で少しでも活かしていただければ幸いです。上高井の子ども達の未来のために、共に手を携えて頑張っていきましょう。

最後になりましたが、上高井教育研究集会の開催に向けご尽力いただきました、伊賀雅志教研推進委員長をはじめとした教研推進委員の皆様、各校において研究集会成功に向け推進していただいた教研学校代表者の皆様、分科会を運営していただいた分科会長、司会者の皆様、貴重な実践レポートを発表していただいた皆様、そして会場を提供し準備していただいた各校の校長先生はじめ各校の先生方、児童生徒のみなさんに深く感謝申し上げます。皆様のおかげで、充実したそして有意義な教育研究集会となりました。ありがとうございました。

上高井教育研究集会委員長 新津 朋典

令和5年度 教研集会スナップ

今年度は6会場に分散して教研集会が開催されました。

初めての試みで、会場校の先生方には会場準備等さまざまな面でご協力いただきました。感謝申し上げます。



分科会において、助言者の先生方には丁寧な、温かいご指導をいただきました。

本年度も、教職員、PTA、地域の皆様をはじめ、大勢の方々にご参加いただき、ともに学び合う機会となりました。参加していただいた皆様、ありがとうございました。



また、分科会長、司会者の皆様には分科会が滞りなく運営できるよう、ご尽力いただきました。

分科会にご自身の実践等を発表いただいた皆様、お忙しい中準備をしてくださりありがとうございました。





最後に、教研集会開催にかかわり、協力してくださった方々に心より御礼申し上げます。
ありがとうございました。



第1分科会 子どもの適応と人間関係づくり

一 研究テーマ

みんなが明るく学校生活を送るための人間関係づくり

二 研究成果

1 レポート発表の概要

(1) 「みんなが明るく学校生活を送るための人間関係づくり」 須坂市立墨坂中学校 栗林 安幸 先生

①理科『身のまわりの気体の性質』の単元での授業実践から

生徒が抱いた疑問から実験をし、その答えを導き出すことを通して、グループの仲間と話し合う必要感が生まれる授業の実践から考えた生徒の人間関係づくり。

②生徒の実態から

○ベネッセ総合学力調査

「私は、授業中、グループ学習やグループ活動によく協力している。」 全国 81.2% 墨坂中学校 91.3%

○教科担任をしている1年生の生徒のふり返り

「最初はグループで話すのも緊張して意見交換ができなかったけど、今は理科のおかげでこの3人と話せるようになりました。」

→学力調査では、グループ活動の項目で全国に比べて肯定的な意見が多く、生徒たちは、意識的ではないかもしれないが、授業を通して人間関係を築いているのではないか。

③成果と今後の課題

相手の考えを否定せず、まずは受け入れるというルールのもとグループ学習（実験）を行った。積極的に自分の意見を発信する姿や相手の意見を受け入れる姿がある一方、知識が不足しているため、なかなか話し合いが進まない班や出来る生徒が一人で引っ張っていく班も出来てしまった。単元展開の中で、探究的な学びを仕組むことで、関わり合いが増え、よりよい関係づくりにつながるだろう。

2 学んだこと（レポート発表・グループ討議から）

(1) 人間関係づくりを苦手とする子どもが多いと感じる昨今であるが、担任だけが請け負うのではなく、そのクラスを担当する先生方や、その子と関わる大人が、皆で意識してよりよい人間関係づくりを出来るよう工夫していきたい。

(2) 小学生低学年は遊びの中で、小学校高学年や中学生は授業の中で関係をつくっていく。自分のこと（得意なことだけでなく不得意なことも）を認め合える関係をつくりたい。大人が管理的になりすぎない。

(3) あいさつ、感謝、笑顔、好きなことを共有できる環境づくりが大切。

3 助言者の指導

北信教育事務所生涯学習課指導主事 土橋 裕樹 先生

・情報を瞬間的に手に入れることができる環境にいる子どもたちであるが、だれもが安心して学び合える環境をつくり、日々成長・変化する子どもたちに私たちがどう関わっていくかが大切である。

・様々な価値観や意見があるが、友の言葉、先生や親の言葉を、「それってどうなんだろう？」と立ち返って自分で考えてみる力や、「話しかければなんとかなる」という経験の積み重ねが大切ではないか。

・大人の「こうあってほしい」は私たちの価値観であり、子どもの価値観ではない。少数意見をどう取り入れていくか。日頃から意識していきたい。

・アクティビティの紹介（楽しいことを何度もくり返すことで安心感が生まれる）

じゃんけん5・じゃんけん足し算・相性ぴったしゲームの実践

仲間さがしゲーム・カウントアップ30・バースデイサークル・アドジャンの紹介

・教師（大人）の役割

見守る！励ます！価値づける！共に楽しむ！ 子どもの変容や成長に目を向ける。

自分を受け入れてくれる、相談できる教師（大人）になり、安心できる場所づくりをする。

三 残された課題

・関わりが固定化する子どもたちが、関係が崩れた時の居場所の問題。

・コロナの影響がこれからどのように出てくるか。

・子ども同様、大人も人間関係づくりは難しい。話を聞いてくれる人がほしい。

第2分科会 子どもの生活づくり

一 研究テーマ 園小接続について考える

二 研究発表

1 発表

(1) 「子どもが安心して過ごせる場所を目指して ～園小接続の観点から～」

旭ヶ丘小学校 市川 知世 先生 ※昨年度日野小学校

○園での現状について

- ・「遊びこむ」子どもたちの様子
- ・「自分たちで決める」環境が作られている状況
- ・子どもたちの主体性を大事にした保育士のあり方

(2) 『学び』と『育ち』をつなぐ園小接続のあり方

日野小学校 岡野 千恵子 先生

○園の活動からつながりを意識した生活科の実践

- ・「いずみの里」や「宮川」での子どもの姿
- ・集団に入れない子と先生との関係づくり
- ・園と小学校での連携のあり方

(3) 日野小の園小接続で学んだこと

日野小学校 森山 知之 先生

○日野小での園小接続で変わった意識

- ・今までの交流活動と「今」の自然な交流の様子
- ・園小接続に関わる教員の意識の変化

2 グループ討議の意見から

- ・園小や小中は、お互いのことをもっと知り合う必要があると感じた。小中の教員は知り合う機会は多少あるが、もっと気軽に知り合ったり、行き来し合ったりする機会を工夫していきたい。
- ・園で最上級生として生活してきた小学1年生を「何もできない子」として扱い、つい数日前まで児童会を引っ張ってきた中学1年生が、「中学では1年生」として扱われてしまうことは、とてももったいないことだと感じた。持っている力をつなげ、より伸ばせるように支援していきたい。

3 助言者の指導

日野保育園 横山 亮子 園長

- ・現在の日野地区の園小接続の様子
- ・園で大事にしていることについて
- ・園小接続が、なぜ大切なことなのか

第3分科会 キャリア教育と進路指導

一 研究テーマ

夢と希望をもって、自分の進路をかなえていけるキャリア教育・進路指導のあり方

二 研究成果

(1) ワークショップ

4グループで子どもとともに考え合いたい内容の記事や時事問題を話し合う

○話題になったことの例

- ・ある事象における新聞記事について、複数の新聞で比べると、一つの事象にもいろいろな見方があることに気づくことができる。例えば「レギュラーガソリンの高騰」の記事から輸出入、エネルギー問題時代による変化、ウェルビーイングなど。
- ・子どもの成長を考えると、どのような経験や体験を積み上げていくといいだろうか。その子にとって一番輝ける場面を考えていきたい。
- ・福島処理水の海洋放出の記事を見た子どもから「これはどういうことか」と聞かれ、原子力発電所や放射性物質、食の安全など、自分も改めて考えるきっかけになった。
- ・観測史上最も暑い気候エネルギーのことなどを考えたい。様々な情報があふれているので、その中から正確な情報を選び取っていかねなければならない。そのためには、物事のいろいろな側面をつながりて考え、知る体験も大事であるし、分けて整理することも大事。間違った情報を鵜呑みにしない。

○深めた視点

子どもたちが未来に向けて、どのように知識をつなぎ、自分の願いに向かって進んでいけるか。保護者、地域の方、教員が周りを取り巻く大人として、広く受け皿をもって、子どもたちとどのようなことを体験、経験できるか考えていくことが大事ではないか。

○助言者の先生からのご指導

- ・様々な時事問題とそれについての見方・考え方があふれている。いろいろなことがつながっている。
- ・少子高齢化社会、不確定な未来をどうやって子どもたちに伝えるのか。
- ・子どもたちが「知を生み出すための知」としての体験が必要。
- ・体験ができなくても、それを補うだけの力が親子のコミュニケーションにはある。

(2) 情報交換

各学校のキャリア教育、キャリアパスポートなどの取り組みをもとに、情報交換や活動を通してどのようなことを子どもたちに学んでほしいかを話し合う。

(3) 助言者の先生のご講演（須坂市教育委員会人権同和教育課 指導員 月岡 英明 先生）

講演テーマ「ジェンダー平等を志向したキャリア形成を」

○今はジェンダー不平等の社会に生きている

不平等社会への順応ではなく、打ち破っていく子どもたちになってほしい。

キャリア形成とは子どもたちが生き方を考え、自ら育つことである。

○SDGs 5番のジェンダー平等・性別によって不利益のない社会

講演をすると中学生も興味があり、問題意識を持っていることがわかる。

ジェンダーは社会的文化的に期待される役割としての性別。ギャップはキャリア形成に影響。

○不平等だと思ふこと

採用、業務内容、進学、学校だけではなく家庭内平等、家事育児

男女格差は縮小してきたが、まだまだ差がある。教育の格差→雇用の格差→収入の格差。

○ジェンダー平等を志向したキャリア形成のために

家庭の子育てからキャリア教育へ。子どもの一番の環境は私たち大人。

第4分科会 人権同和教育

一 研究テーマ 『あけぼの』を活用した豊かな人権同和教育の実践

二 研究成果

1 先生方の普段の実践の様子及び学んだこと

- ・道徳の授業の座席は、くじ引きで決める。
- ・じゃんけん列車等レクリエーションの際にトラブルが起きたら、その困った気持ちを話してもらって学びの機会とする。
- ・素直に自分の気持ちを話せる低学年の頃からグループで意見交換を積極的に行い、人権意識の土台を作る。
- ・「今日も学校が楽しかったな」と思える授業を行うことが、人権同和教育の点からも大切である。
- ・授業者が、まず個々の人権課題に対して正しい理解をすることが大切である。
- ・5学年の国語の学習とあわせて「ぼくのお母さんって、すごいんだ」を取り上げることで、ユニバーサルデザインへの理解が深まる。
- ・学校で点字の学習をした後、家庭でシャンプーのボトルに点字があることに気付いている児童の姿があった。家庭では人権課題が話題にあがる機会を増やすためにも、学校で積極的に人権学習を扱っていきるとよい。
- ・高学年では差別に立ち向かった人、差別を乗り越えた人の気持ちを考える学習に取り組んでいる。その際「自分だったらどうする？」と問いかけることで、当事者の方の気持ちをより想像するきっかけとなる。
- ・「ハンセン病」や「HIV」の教材などは、多くの中学校で扱っている。
- ・複数の小学校から入学してくる中学校では、各小学校で共通した題材を扱ってほしい。
- ・小学校のあけぼのは、中学校のあけぼのでも扱う題材が物語となって掲載されていることが分かった。

2 助言者の指導

- ・立場を変えて、考えてみる機会をつくってほしい。
「もりの なかまたち」(低学年)の学習時、おおかみの気持ちを考えてみる。
- ・子どもたちの生き方を問う学びを展開してほしい。
「わたしの道を ー高橋くら子の生き方ー」の学習時「自分だったらどうする？」と問いかけてみる。
- ・学級に「差別はないけど、困っている子はいないか」と考えてみてほしい。
「エスコラ シャータ(学校つまらない)」の学習時、問いかけることで子どもたちは自分の生活を思い返す機会となる。
- ・教師が正しく人権課題を理解して、正しく教えましょう(起こしましょう)。
現代は「ねた子は、ネットで間違っって起こされる」時代。
- ・あけぼのの改訂は現在進行形で、社会のニーズに応え続ける姿勢で編成している。
(物が溢れてしまうお宅について、ヘルプマークについて、ヤングケアラーについて、性の多様性について等)
- ・一つひとつの人権課題に自分事として向かい合ったり、相反する気持ちを共有したりする展開が大切。
- ・一つの人権課題とじっくり向き合い深く考える経験があると、他の人権課題に対しても応用がきいて考えることができるようになる。

三 残された課題

- ・本分科会のように、各教材の意義や価値や新しい人権課題に対して、授業者が正しく理解できる研修の機会を充実させること。

第5分科会 健康教育

一 研究テーマ 健やかな生活を支える食習慣のあり方

二 研究成果

1 学校給食センターの紹介

令和3年度より稼働している給食センターの様子をビデオで紹介していただいた。

調理員さんの手作業の部分、大きな機械を使つての作業のようす、衛生にとっても配慮している点などがわかった。

2 グループごとに座談会

①食事のようす（話の中から一部を抜粋しました）

- ・給食で食べることができるようになったものがある。
- ・苦手だけど友達が食べているから食べてみようと思う。
- ・黙食に慣れてしまって、しゃべって食べる楽しみがなくなったように思う。
- ・みんなと一緒に食べようと言うことを大切にしている。
- ・給食ありがたい。→弁当になるといつも同じようなものになり心配。朝食も気を使う。
→アレルギーにも対応していただきありがたい。
- ・大人数の家族でバランスが取りにくい。（世代で好みが違う）
→昔は父が中心だったが、今は子どもに合わせることが多い。
- ・時間が不規則だったり、家族それぞれに都合があったりするが、できるだけ一緒に食べる時間を作っていきたい。
- ・野菜の苦手は、ドレッシングでカバーして食べられるようにしている。

②食事で気になること（話の中から一部を抜粋しました）

- ・休日は、食事の時間や量などが乱れてしまうことが多い。
- ・なぜかはわからないが、今まで食べていたのに急に食べなくなって心配。
- ・給食で子どもたちが食べる量は個人差が大きい。
- ・食べる時間が不規則。朝早いと食べられないこともある。夜は疲れて食べられない。
- ・気分転換で外食が多くなる。
- ・高学年の女子は量を気にしている。食べている姿を見られたくない子もいる。
- ・味の濃さやごはんの量が家庭と給食では違うと感じる。

3 助言者の先生のお話

「児童生徒の食に関する実態調査（令和4年度）」の結果より

○調査結果

- ・起床が早い人ほど、毎日朝食を食べている。
- ・体調がよいことと、毎日朝食を食べることは関連がある。
- ・起床が早い人ほど、朝食のバランスが良い。
- ・朝食は必要だと思っている人ほど、バランスのよい朝食を食べている。
- ・朝食が必要だと思っている人ほど、朝食を食べている。（平日・休日ともに）

○課題と食育の方向性

- ・「早寝・早起き・朝食摂取」の定着を図る。
- ・自ら食事を用意する力をつける。
- ・成長期に必要な「食事摂取基準」を理解させる。

4 朝食を見直しましょう。（試食）

- ・忙しい朝でもバランスのよい食事になる「簡単おにぎり」「みそ玉」を使った味噌汁の試食。
→ 朝食は大事とわかっているが、なかなか朝食に時間をかけられないと思っていたが、この「簡単おにぎり」と「みそ玉の味噌汁」なら手軽に調理でき、おいしかった。

三 残された課題

- ・コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、参加者みんなで調理をして試食をするということをせず、サランラップでおにぎりを作るなど、最低限の作業で試食をする形にしたため、講師の先生方に準備の負担をかけてしまった。

第6分科会 子どもと地域社会

一 研究テーマ

学校と地域の連携のあり方（子どもの居場所づくり）

二 研究成果

（1）レポート発表の概要

① 「学校と地域の連携のあり方」 井上小学校 井澤 滋 先生

- ・動物園から借りた雌雄のアヒルの世話をする中での気づきや学び
孵らぬ卵や日々の世話を通して、命の重さを学び、責任ある行動力が身についた。
- ・散歩の途中で見つけた竹から広がる学び
竹の提供者を招待しての流しそうめん。物作りや遊びが子ども同士をつないだ。
- ・大人になった自分を勇気づけ、はげます、原風景を持たせてあげたい。

② 「地域を学ぶ、地域に学ぶ、地域で学ぶ社会科（総合的学習）」日滝小学校 成田 達昭 先生

- ・「こどもやんしゃ」の活動について 小学校3年生での地域学習。4町が毎年輪番でおこなう。
子どもたちが地域を巡り、地域の方から歴史や文化財などについて教えていただく。
五感を通した学びから、地域を知る楽しさを味わえ、6学年での歴史学習にもつながる。
- ・10年ぶりに同じ学校に赴任し、保護者となったかつての教え子に再会。地域のたくましい担い手となっており、感無量。未来を見据えて、今の子どもたちに関わりたい。

（2）グループ討議の概要

- ・PTA、CS、自治会などの協力により、地域の史跡めぐり、自然体験、農業体験、もの作り、読み聞かせなど、学校の内外に、数多くの学びの場を提供してもらえており、本当にありがたい。
- ・地域での学びを生かして、「こんな地域にしていきたい」「地域のためにこんなことをしたい」と、子どもたちからも発信や行動をしていきたいと思う。
- ・「〇〇したいので、協力ください。」と学校から声があがれば、地域はいくらでも協力します。

（3）助言者の指導

須坂市地域づくりコーディネーター兼子どもの居場所コーディネーター 三溝 清洋 先生

これからの時代、どんな境遇にあってもたくましく生きていける力を育てていきたい。

今までは、個人の特性の凸凹のへこみを埋めて四角にしてきた。へこみを埋めるのではなく、出っ張りをさらに伸ばしていきたい。管理しやすい企画品としての人材をつくるのではない、規格外にあるたくましさ、可能性を伸ばそう。他者との比較ではなく、昨日の自分からどれだけ成長できるかが大切だ。

教師は、地域の中に出かけて行って、地域の物や事、人とつながり、子どもたちと出会わせたい。地域学習を通して、子どもたちの中に生まれる問いを大切にすくい上げ、広げ深めていくことが必要だ。

三 残された課題

- ・大人に干渉されずに、子どもたちが自由に集まり、伸び伸びと遊べる居場所を作っていきたい。
- ・子どもたちの学びの場であると共に、親同士がつながり、地域の人々が結びつくための拠点としての学校のあり方を見つめなおし、大きく育てていきたい。

あとがき

ここ3年間コロナ禍のために開催ができずにいた上高井教育研究集会が、今年度は、分科会を6校の会場に分けたり、人数制限を設けたりすることで、参集による開催が実現できましたこと、誠に感謝でございます。また、第70回という記念すべき節目の年でもありました。この伝統ある本集会は、「上高井教育の充実を図るために、教育会・長頭組・県教組が一体となって、現場における教育実践を持ちより、研究協議を通して、その意義を確かめ合い、研究の深化発展を図り、教育推進への自覚を深める。更に、保護者・地域住民の協力参加を得て、地域教育の振興をはかる」ことを基本方針として、当日は、テーマ別に6つの分科会に分かれ教職員・PTA等総勢約270名もの参加者を得て、今日的教育課題について討議を深めることができました。各分科会場では、日頃の教育実践や問題提起をレポート発表やグループ形式での対話や講習を通して様々な角度から研究が深められました。ここに学校・家庭・地域が一体となって教育問題に取り組んでいこうという力強さと熱意を感じました。多くの方から「参加してよかった」という声を聴くたびに関係者の一人としてほっとしているところです。当日、実践報告をしていただいたレポート作成者はじめ、多くの皆様に心より御礼申し上げます。また、助言者の皆様方からは、明日、子どもたちを目の前にしてすぐ実践できるようなご助言を丁寧にご指導いただきましたこと、改めて御礼を申し上げます。

このように成果のある教育研究集会になりましたのも、助言者との打ち合わせから分科会の運営にあたるまで綿密な計画を立てていただいた分科会長の皆さんをはじめ、当日の司会者の皆さん、レポートの回収並びに配布、参加者のとりまとめをしていただいた学校代表者の皆様、そして会場を提供くださいました高甫小学校、相森中学校、高山中学校、栗ガ丘小学校、須坂小学校、常盤中学校の校長先生はじめ先生方、児童生徒のみなさんのおかげであると心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

最後に、本教育研究集会推進に関わられた三団体の代表者の皆様の日程を記し、次年度へ繋げます。

4月17日	第1回三団体代表者会	・基本方針の確認、推進方法の確認等
	第1回推進委員会	・係分担・推進日程の確認、分科会希望調査の検討等
4月24日	第2回推進委員会	・分科会設定に関する検討、提出レポート調査検討、他団体要請等
4月28日	第1回学校代表者会	・基本方針・推進日程の確認、提出レポート等調査依頼等
5月22日	第3回推進委員会	・参加者確認、分科会長選定・依頼、分科会助言者の選定等
6月9日	第4回推進委員会	・分科会長会・中間連絡会の持ち方、レポート形式、他団体・来賓参加依頼等
6月16日	分科会長・司会者打合せ	・日程確認、討議題確認、研究計画の立案、分科会運営計画作成等
7月4日	中間連絡会	・分科会討議計画・記録について、分科会要項書作成等
	第5回推進委員会	・参加者名簿の作成集計、要項作成、当日日程の検討等
7月14日	第6回推進委員会	・集会要項校正、会場確認、係分担、
8月21日	学校代表者会	・レポート交換、集会要項配布
	第7回推進委員会	・今後の日程の打ち合わせ 使用物品・人数確認
9月1日	分科会長会	・前日準備、反省まとめの依頼、当日の動きの確認
	第8回推進委員会	・前日準備、最終確認
9月2日	教研集会当日	
10月3日	第9回推進委員会	・概要の編集、反省の集約、代表者会について
11月13日	第2回三団体代表者会	・三団体への答申、会計中間報告、反省総括等
1月29日	第10回推進委員会	・会計監査、反省

令和5年9月吉日

第70回上高井教育研究集会推進委員長 伊賀 雅志